

# ふうしゃだより

2021.  
12月号

Merry Christmas

皆様こんにちは。日本風力エネルギー（株）です。

師も走るという言葉の通り、あっという間に年末が近づいています。  
今号では、「中里風力発電所」青森県中泊町に2022年1月稼働開始予定や2020年度エネルギー需給状況についてお伝えします。



## 注目CONTENTS

- ・鳥取大学農学部田川先生へ風力発電に関するインタビュー
- ・青森県に13基の風車を有する「中里風力発電所」2022年1月末より稼働開始予定
- ・注目のエネルギーニュース：2020年度エネルギー需要、再エネ発電は8年連続増加



弊社が計画しております「(仮称)鳥取風力発電事業」は計画段階であり、風車の位置などは地域住民や専門家のご意見を頂きながら、進めてまいります。説明会や話し合いの機会を頂戴できますと幸いです。

お問い合わせ

日本風力エネルギー株式会社 鳥取事業所（鳥取風力合同会社）

〒680-0404 鳥取県八頭郡八頭町見櫛中154-2 集LAB 2-A  
TEL. 0858-76-0700 FAX. 0858-76-0701



(仮称)鳥取風力発電事業 専用サイト：<https://project.venaenergy.co.jp/tottori/>



# 注目のエネルギーニュース

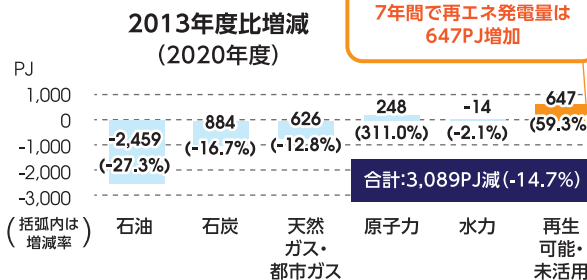
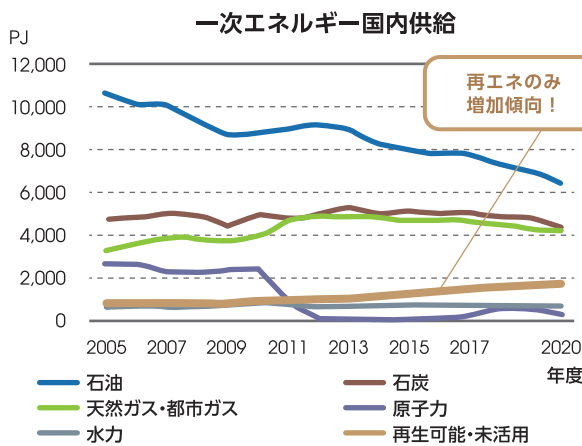


## 脱炭素化に向け、 エネルギー転換が加速化

### 「2020年度エネルギー需給実績」が発表される 国内の電力供給が減る中、再エネ発電は8年連続増加

資源エネルギー庁から2020年度エネルギー需給実績(速報)が発表されました。一次エネルギー国内供給は前年度比6.1%減で、化石燃料は7年連続で減少。一方、再生可能エネルギーは8年連続で増加傾向となっています。

速報では、以下のエネルギー需給実績がポイントとしてあげられています。10月に閣議決定された第6次エネルギー基本計画も示しているように、脱炭素化に向けた再エネへの転換が加速化していることがわかります。



※PJ=ペタ・ジュールとは

エネルギー量の単位で、千兆(10の15乗)ジュールに値します。4人家族の家庭の年間使用エネルギー量(全国平均)は、43GJ(ギガ・ジュール)相当です。

※未活用(エネルギー)とは

廃棄物からのエネルギー回収利用や廃棄物から製造・生成されたエネルギーの利用、従来利用されず放散・廃棄されてきたエネルギーの回収利用によるエネルギーの需給のこと。

#### ここがポイント!



#### POINT 01

一次エネルギー供給における化石燃料シェアは、東日本大震災以降で最小(84.8%)。

再エネ(水力を除く)は風力・太陽光がけん引し前年度比7.1%増加。

#### POINT 02

発電電力の総量は前年度比2.1%減少しており、非化石電源の割合は23.7%に。

再エネ発電量は19.8%で前年度比1.7%増である一方、原子力は前年度比2.4%減。

#### POINT 03

エネルギー起源CO2排出量は前年度比6.0%減の9.7億トン。

2013年度比21.7%減で、7年連続減少。







日本風力エネルギー

## 青森県に13基の風車を有する

## 「中里風力発電所」2022年1月末より稼働開始予定

日本風力エネルギーは津軽半島に位置する人口約1万人の青森県中泊町にて、2020年7月より「中里風力発電所」の建設を進めていました。この度、建設が完了し、風車13基を有する「中里風力発電所」は2022年1月末から商業運転の開始を予定しています。

### ■ データで見る「中里風力発電所」

所在地	青森県中泊町
風車本数	13基
風車出力(1基あたり)	3,600kW
総発電容量	46.8MW(46,800kW)※
ハブ高/風車高	116.5m/175m

※系統接続容量は36.0MW(36,000kW)



「中里風力発電所」は、弊社において、2件目の風力発電所となります。本年6月に商業運転を開始した「苓北風力発電所」(熊本県)は、地域の住民、行政のご協力、ご指導を頂きながら、商業運転を続けています。

中泊風力発電所の稼働開始後は、中泊町の地域再生事業へ20年に及び寄附をいたします。寄附の一部は町の文化的シンボルである「大正浪漫かほるステンドグラス 宮越家」の改修に充てられる予定です。



### 濱館豊光中泊町長からのお言葉 (竣工式リリースより抜粋)

「風という中泊町の自然を生かし、地球温暖化防止等に寄与できることを喜ばしく思う。また、日本風力エネルギーとは良きパートナーとして、地域雇用の創出、長期的に持続可能な地域づくりを共に進めていきたい」

## 「ふうしゃだより」がWEBでも読めるようになりました



2021年6月以降に配布した「ふうしゃだより」が、PDF形式で閲覧できるようになりました。PC、スマホ、タブレットからご覧いただけます。



スマホやタブレットから、こちらのQRコードを読み込んでアクセスできます。



ふうしゃだよりWEB版はこちら <https://project.venaenergy.co.jp/tottori/fuushadayori>

## Interview theme

### 風力発電 Q&A



風力発電の現状を世界の情報を交えて解説いただきました。

2002年より日本風力エネルギー学会に所属し、自然エネルギーを活用して世界の食料・水問題を解決すべく、精力的に研究をされている田川先生。風力発電の現状や期待できることについて、お話をいただきました。

今回のインタビューは

鳥取大学 農学部  
生命環境農学科 准教授

田川 公太郎先生

自然エネルギー利活用を中心に、途上国におけるエネルギー・水・食料問題の解決を図る研究活動を行っている。



### Q1. 化石燃料への依存をなくす取り組みの重要性は？

**A** 産油国を含めた世界各国において、自然エネルギーを積極的に導入する事例が増えています。

石油・石炭・天然ガスなどの化石燃料は有限的な資源であることは変わりませんし、世界各国で温室効果ガスの排出量を大きく削減することが求められています。最近では、中東諸国やメキシコなどの産油国であっても積極的に自然エネルギーへ転換する取り組みが進められています。世界中の研究機関や企業において、次世代エネルギーを見据えた研究開発やビジネス展開が加速しています。

### Q2. 風力発電を建設するメリットはなんですか？

**A** CO2削減に役立つのはもちろん、広い目で見ると地域活性化にも役立ちます。

長期的には温室効果ガスの削減に大きく寄与するという点が一番でしょう。また、風力発電所が建設されたエリアへ電力が供給される“分散型電源”としての役割や、売電利益を還元することで経済的に地域が潤うことも大きなメリットとして望まれています。これは海外の事例ですが、農地へ送電線を通し、自然エネルギーによる発電と電力供給により、アクアポニックス（陸上で魚と植物を同時に育てる取り組み）を実現した取り組みがありました。これは豊富な自然エネルギーを生み出す環境があるからこそ実現可能だったこと。つまり、自然エネルギーによる電力をその地域で活用することで、そのエリアでできる取り組みや事業の可能性が広がり、地域活性化へとつながることが期待できます。

### Q3. 風力発電の騒音について教えてください。

**A** 風力発電を導入した立地条件や人々が暮らす住居環境によって、騒音の間こえ方や感じ方が異なるため、地域の状況に配慮した騒音対策が求められているのが現状です。

風力発電で発生する騒音は発電設備の大きさや風況の条件によって異なりますし、騒音の間こえ方は風力発電からの距離、立地条件（山に囲まれている、平地など）、住居の周囲環境などによって影響を受けると考えられています。また、風力発電施設から発生する騒音に関する指針や測定マニュアルが環境省にて策定されており、これらを活用して風車の騒音低減や騒音問題の未然防止の取り組みが進められています。

